

当年度の業績概況

CFOメッセージ



取締役
副社長執行役員
中本 祥一

連結業績

2013年度における当社グループの売上高は、前年度比19.0%増の2兆3,093億円となりました。

売上総利益は、売上高同様、前年度を71.7%上回る5,940億円となり、オーガニック成長率は7.7%となりました。売上総利益をセグメント別で見ますと、広告業セグメントは前年度に買収したイージス・グループに係る収益を2013年度から取込んだことにより、同76.6%増の5,713億円となりました。情報サービス業セグメントは、電通国際情報サービスの金融ソリューション領域が好調であったことなどにより、同4.0%増の228億円となりました。また、その他の事業セグメントは、同5.4%減の35億円となりました。

販売費及び一般管理費については、イージス・グループの取込みに加え、のれん等償却額の増加により、同81.8%増の5,225億円となりました。

営業利益は、売上総利益の増加が販売費及び一般管理費の増加を上回った結果、同22.3%増の714億円となり、当期純利益は388億円(同6.8%増)となりました。

連結決算ハイライト

単位：百万円	2012年度	2013年度	前年度比
売上高	1,941,223	2,309,359	+19.0%
売上総利益	345,940	594,072	+71.7%
広告業	323,596	571,315	+76.6%
情報サービス業	21,980	22,855	+4.0%
その他の事業	3,711	3,512	-5.4%
売上総利益率	17.8%	25.7%	+7.9ポイント
営業利益	58,466	71,490	+22.3%
当期純利益	36,336	38,800	+6.8%
EBITDA	74,734	130,818	+75.0%
のれん等償却前 営業利益*1	62,841	114,186	+81.7%
オペレーティング・ マージン*2	18.2%	19.2%	+1.1ポイント
1株当たり当期純利益 (のれん等償却前)	163.4円	295.9円	+81.1%

*1 営業利益+のれん償却費+無形固定資産償却費(除くソフトウェア償却費)

*2 のれん等償却前営業利益÷売上総利益×100

地域別の状況

地域別では、日本の売上総利益は前年度比8.9%増となる3,114億円、のれん等償却前営業利益は同33.4%増の724億円となりました。EMEA(欧州・アフリカ・中東)の売上総利益は同3036.0%増の1,086億円、Americas(米州)が同176.8%増の936億円、APAC(アジアパシフィック、ただし日本を除く)は同256.0%増の807億円となり、電通イーゼス・ネットワーク全体の売上総利益は、同372.0%増となる2,828億円、のれん等償却前営業利益は同397.3%増の413億円となりました。

オーガニック成長率については、第1四半期、第2四半期にマクロ環境が非常に厳しい状況にあったEMEAの成長率が2.3%と低調に推移しましたが、Americas、APACは、それぞれ7.8%、8.9%、電通イーゼス・ネットワーク全体では5.9%となり、日本のオーガニック成長率9.2%と合わせると、当社グループ全体では7.7%の成長率となりました。

のれん等償却前オペレーティング・マージンについては、日本では23.3%と非常に高い水準となりました。また、電通イーゼス・ネットワークも13%台から14%台へと改善してきており、全体で19.2%と上昇しています。

地域別の状況

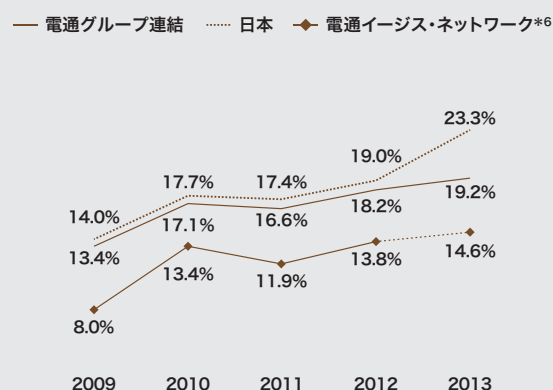
	売上総利益			のれん等償却前営業利益		
	単位:百万円	2012年度	2013年度	前年度比	2012年度	2013年度
日本		285,991	311,416	+8.9%	54,292	72,409
EMEA*3		3,465	108,683	+3036.0%	—	—
Americas*4		33,826	93,623	+176.8%	—	—
APAC*5		22,670	80,719	+256.0%	—	—
電通イーゼス・ネットワーク計		59,921	282,857	+372.0%	8,324	41,393
電通グループ連結計		345,940	594,072	+71.7%	62,841	114,186

*3 欧州・アフリカ・中東

*4 米州

*5 アジアパシフィック

のれん等償却前 オペレーティング・マージン推移



*6 2013年度より、旧イーゼス・グループの業績を連結

プロフォーマによる補足説明

2013年度の連結決算は、イージス・グループの買収効果が通年で寄与したこととともない、前年度対比の数字が大きく変動しています。仮にイージス・グループを前年度にすでに買収し連結していたと想定して計算したプロフォーマ・ベース*7の対比では、売上高は前年度比9.9%増、売上総利益は同18.9%増となりました。また、営業利益は同36.6%増、当期純利益は同58.7%増という結果となり、プロフォーマ・ベースにおいても高い成長率を達成することができたと考えています。

*7 2012年1月1日にイージス・グループ買収を実施したという想定で、当社2012年度実績に、イージス・グループ2012年実績を日本会計基準で連結、買収関連コストを控除したうえで、当年度と同額ののれん等償却費を調整（為替レートは前年を使用）（未監査）

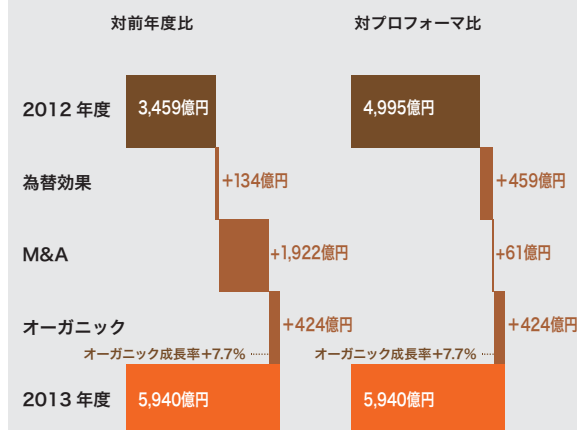
連結決算ハイライト（プロフォーマ対比）

単位：百万円	2012年度 プロフォーマ	2013年度	対プロフォーマ比
売上高	2,102,122	2,309,359	+9.9%
売上総利益	499,505	594,072	+18.9%
売上総利益率	23.8%	25.7%	+2.0ポイント
営業利益	52,318	71,490	+36.6%
当期純利益	24,445	38,800	+58.7%
EBITDA	101,014	130,818	+29.5%
のれん等償却前 営業利益*8	85,846	114,186	+33.0%
オペレーティング・ マージン*9	17.2%	19.2%	+2.0ポイント
1株当たり当期純利益 （のれん等償却前）	232.7円	295.9円	+27.2%

*8 営業利益+のれん償却費+無形固定資産償却費（除くソフトウェア償却費）

*9 のれん等償却前営業利益÷売上総利益×100

売上総利益成長



財政状態

2014年3月末の連結貸借対照表は、イーゼス・グループを買収したことによる影響が大きく反映されています。

流動資産 1 兆3,683億円(前年度末比21.9%増)が増加した背景は、ほとんどがイーゼス・グループの受取手形も含む売上債権です。固定資産 1 兆2,699億円(同17.3%増)は、為替変動(円安)の影響が大きく反映されています。為替変動の影響については、連結貸借対照表の純資産の部「為替換算調整勘定」にも表れています。

流動負債 1 兆2,532億円(同4.9%減)は、イーゼス・グループの営業債務が加わったのに対し、2013年3月末に計上していたイーゼス・グループ買収に係る未払金を2013年4月に支払い、減少しています。固定負債 4,765億円(同70.6%増)は、主にイーゼス・グループ買収のための借入金増加によるものです。

株主資本7,158億円(同25.5%増)の増加は、当年度に増資を実施したことが主な要因であります。

結果的に、総資産は 2 兆6,383億円(同19.6%増)と大幅に増加しました。主に、為替の変動とイーゼス・グループを連結したことによるものです。

2014年3月末の有利子負債は3,425億円、一方、現金及び預金と有価証券の合計が2,286億円ですので、ネット有利子負債は1,138億円です。これを2013年度のEBITDA1,308億円で除したネット有利子負債/EBITDA倍率は0.87倍、また、2014年3月末の純資産9,084億円を除したネットD/Eレシオは0.13倍となっています。

連結貸借対照表 (概要)

単位: 百万円	2013年3月末	2014年3月末	前年度末比
流動資産	1,122,602	1,368,385	+21.9%
固定資産	1,082,966	1,269,933	+17.3%
資産合計	2,205,569	2,638,319	+19.6%
流動負債	1,317,554	1,253,263	-4.9%
固定負債	279,377	476,560	+70.6%
負債合計	1,596,931	1,729,824	+8.3%
株主資本	570,419	715,828	+25.5%
その他の包括利益 累計額	14,076	167,289	+1088.4%
少数株主持分	24,141	25,377	+5.1%
純資産合計	608,637	908,495	+49.3%
負債・純資産合計	2,205,569	2,638,319	+19.6%

負債の状況

単位: 百万円	2013年3月末	2014年3月末	前年度末差
有利子負債	215,852	342,502	+126,650
現金及び預金、有価証券	208,473	228,641	+20,168
ネット有利子負債	7,379	113,861	+106,481
EBITDA	74,734	130,818	+56,084
ネット有利子負債 / EBITDA	0.10 倍	0.87 倍	+0.77倍
ネット D/E レシオ	0.01 倍	0.13 倍	+0.12倍

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローで975億円が創出された一方、イージス・グループ買収を中心に活発な投資活動を行ったため、投資活動によるキャッシュ・フローは3,180億円の支出と高水準になりました。財務活動によるキャッシュ・フローから得た資金は2,265億円となり、主に長期借入による収入、自己株式の処分による収入および株式の発行による収入により、収入が2,318億円増加しました。

配当

配当金については、1株当たり年間配当金を33円(前年度比1円増)とし、配当性向は23.4%となっています。